

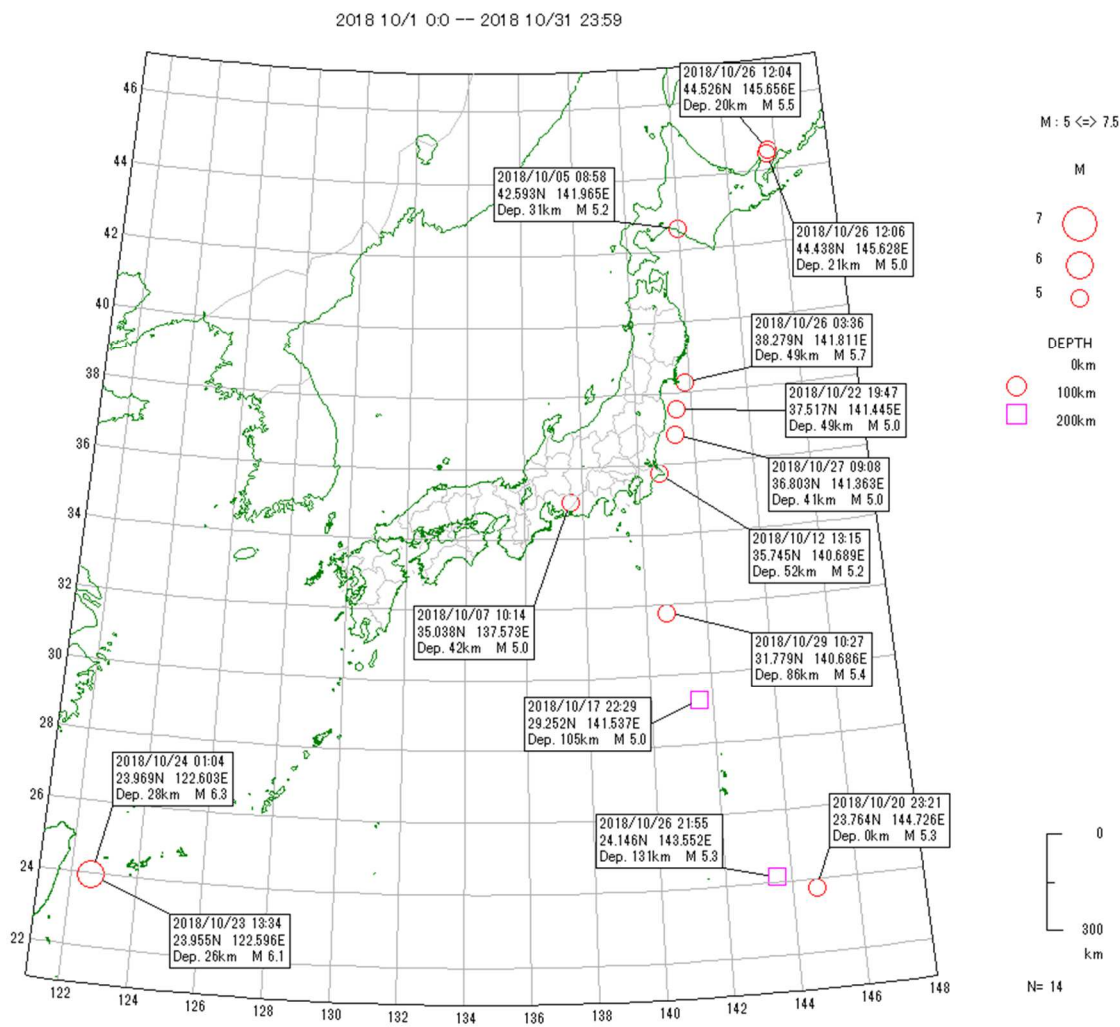


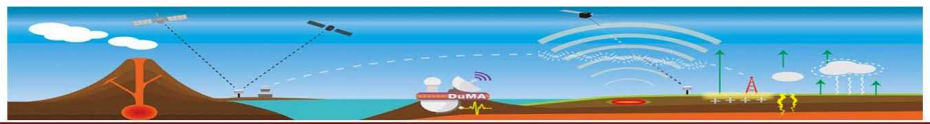
### 10月の地震活動概観

2018年10月の地震活動で最も顕著だったのは、台湾近傍で発生したマグニチュード6.1(10月21日)と6.3(10月22日)の連続した地震活動でした。この2つはほとんど同じ場所で発生した地震で双子地震とも言える地震活動です。これは今年6月に発生した大阪北部地震よりも大きな地震なのですが、震源が陸域でない事から、マグニチュードは大きくても与那国町で震度3を観測したのが最大で、もちろん被害地震にはなっていません。

このように地震学的にはこの地震が最も大きなものとなりますが、社会的には1)被害がでたか、2)大きな震度が観測されたか、が報道基準となりますので、このあたりが報道だけに頼ると日本列島およびその周辺の地震活動を間違えて評価してしまう可能性があります。地震学的に重要なのは、震度ではなく、マグニチュードという事になります。

10月1ヶ月ではマグニチュード5を越える地震は地図の範囲で合計14個発生していました。ちなみに9月も同じく14個でした。

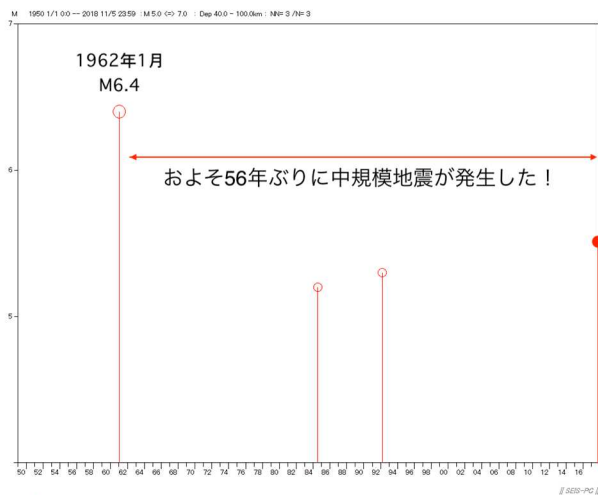




## 紀伊半島沖で極めて珍しい地震が発生しました

11月2日、紀伊半島南西沖で極めて珍しい地震が発生し、西日本で広く有感となりました。紀伊半島周辺、特に和歌山周辺は普段から微小地震活動が活発なところですが、それは比較的浅い(深さ20km程度まで)地震活動です。2日の地震は50kmという深さで発生しました。これは(将来南海トラフ巨大地震が想定されている)沈み込むフィリピン海プレートの上面で発生したものと思われます。

この地震がいかに珍しいものであったかは下の2つの図でおわかりになるかと思います。

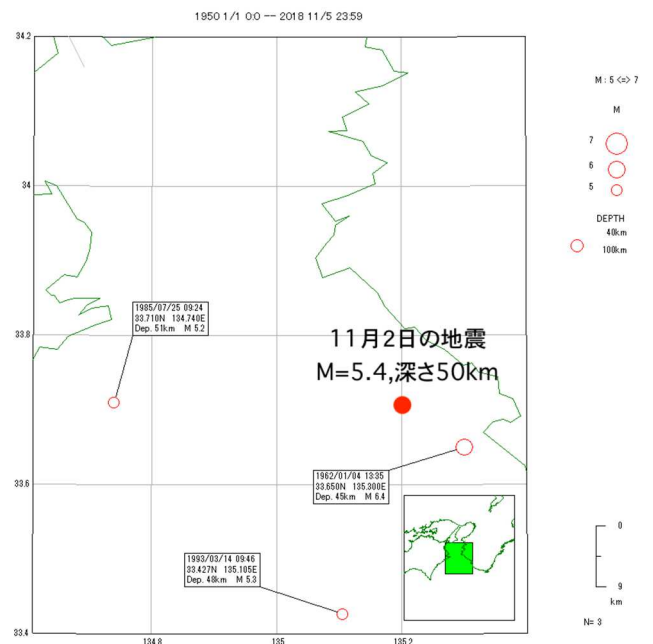


左)横軸は1950年から2018年まで

この付近ではおよそ56年ぶりの地震

右)紀伊水道のマグニチュード5以上の地震

(1950-2018年11月2日まで)

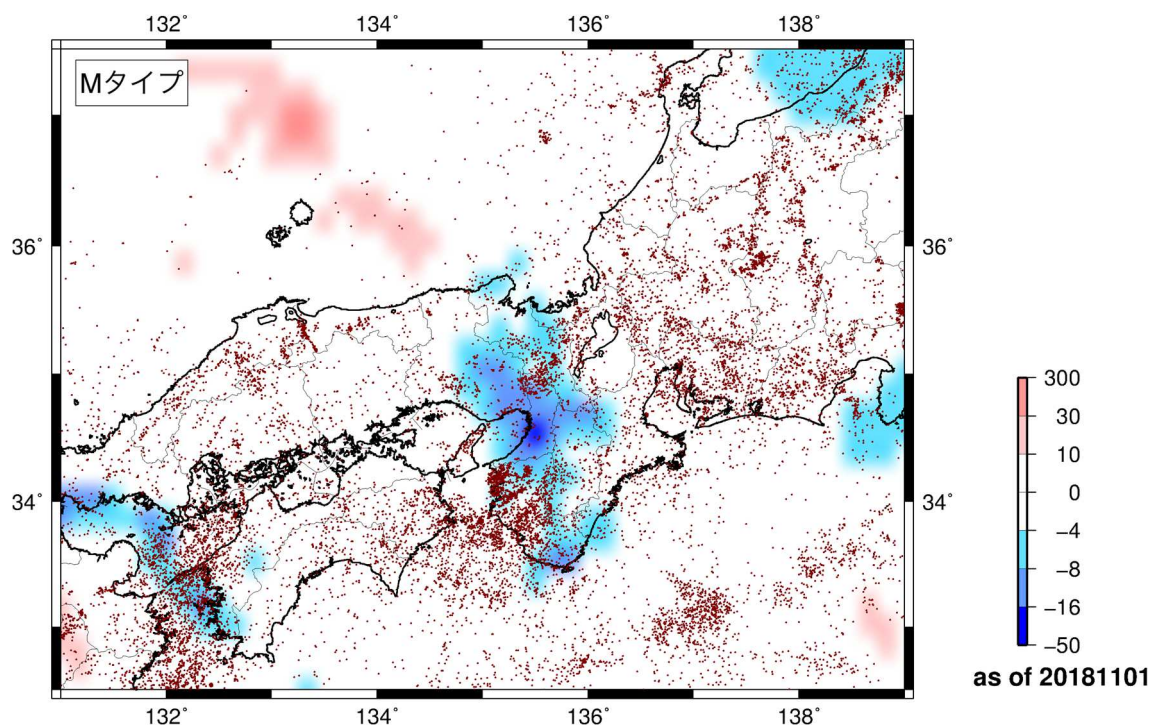




紀伊半島沖では、海上保安庁の海底地殻変動解析でも異常な変動が続いている事を2018年8月13日付けのニュースレターでお知らせしていますが、ここに来て極めて珍しい事が起きている事は確実なようです。

## 中部・近畿・中国・四国地方の地下天気図®

9月17日のニュースレターに引き続き、中部地方以西の地下天気図解析です。下の地下天気図は11月1日時点のMタイプです。この地下天気図では、過去18年間という長期の地震データを用いています。9月17日のニュースレターからほとんど変化の無い事がわかりました。



この18年間のデータを使った解析では、近畿地方の地震活動静穏化はまだ解消していない事がわかりました。

図中の小さな茶色の点は過去に発生した地震を示します。紀伊水道はかなり活発な地震活動が存在するのですが、繰り返しになりますが、そのほとんどは浅い活動で、11月2日のような深い活動は極めて珍しいものであるという事なのです。